

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2025-07-04

なし

(発行年 / Year)

1910

生スルセノナレハ債務者ヲフレテ其契約ニ基キタル抗辯ヲ爲ス。トヲ得セシムルハ甚ダ至當ノ事ナリト信ス然レトモ債務者ハ契約ノ成立後ニ生レタル事由ニ基キタル抗辯ヲ爲スコト得サルカ故ニ契約

成立後ニ於債務者對シテ取得シタル債權ヲ以テ相殺ノ用供スルコト能ハサルナリ

第五百三十七條

(理由) 本款規定セル事項ニ付テハ反對ノ意思ヲ表示スルコト決シテ少カラサル可ク又法律ニ別段ノ定ア場合ニ屢々之アル可レ故ニ茲ニ本條ノ規定ヲ設ケタリ

第三款 契約ノ解除

既成法典、義務、消滅三關スル規定ノ一節トシテ契約ノ解除一關シ僅ニ第五百六十一条ノ一个條フ
設セト羅。之ノ謂ニ義務ハ解除條件ノ成就又ハ裁判上得ヨムル解除ニ因リテ消滅スルコト及ビ解除訴
權通常ノ時效期間ニ從フコトヲ認ムルノミニシテ解除一關タル種々ノ規定ハ法典ノ所々散在シ
殊解除結果付キ相當ノ規定ヲ設ケサルハ其缺點ト云サルヘカラス故ニ本案ハ解除ニ關スル
一般ノ規定ヲ總括シ殊ニ解除ノ結果カ當事者ノ意思又ハ法律ノ規定ニ依リテ定マラサル場合ニ於ケ
ル準則ヲ示。其他既成法典ニ規定セサル多數當事者間ノ契約ノ解除ニ關シ或ハ解除權ノ消滅ニ關レ
順次適當規定ヲ設ケタリ

第五百三十九條

契約解除ノ方法 關スル諸國ノ立法例ハ凡ソ之ヲ三種ニ區別スルコトヲ得即チ一ハ佛伊、和諸國ノ
法典及ヒ既成法典ノ如ク裁判上ノ解除方法ニ依リ一ハ獨民法某種士債務法ノ如ク意思表示ニ依
ル解除方法ヲ採リハ當然解除ノ主義ニ依ルモノト而シテ當然解除ノ主義ハ極メテ簡便ナリト雖
モ簡易ニ過ルノ弊害ハ未タ法律ニ憲レサル一般人民ヲ往々不知不識ノ間に權利ヲ失ヒ意外ノ
不利益ヲ蒙シムモノナレハ當然解除ノ主義ハ便宜上或場合ニ限リテ之ヲ認ムヘキモ一般ニ此主
義ニ從フハ法律保護本旨ニ適セナルヲ以テ本案ハ既ニ相殺ノ規定付キ當然相殺カ行ハルヘキ主
義ヲ採用セサリ。如ク本能ニ於テモ亦當然解除ノ主義ヲ排セリ。次に裁判上ノ解除方法ハ極メテ都

(理由) 本條ハ贈與者、贈保、責任ニ關スル規定ニシテ既成法典所載第三百五十一條ニ則カ修

正ヲ加ヘタリ蓋ノ贈與無儀行爲ナルヲ以テ多數ノ立法例ハ贈與者、責任ヲ輕減シ贈與者ハ重大ナ

ル過失アルニ非サハ贈保、責任ニ任セシムト云フ如キ規定ヲ成ク特贈與ハ常ニ單純ナル思惠ノミ

ル本ツクヨムニ非キハ贈與者、責任ハ必シモ之ヲ輕易ニセサルカラサル理由ナシト故ニ本

案ハ固ヨリ此ノ如キ立法主義ヲ採用スル非スト雖モ當事者ノ通常之意思ヲ斟酌スルトキハ既成法

典ノ主義ハ正ニ其當ヲ得タルモノト認ムルニ因リ本條ニ於テ贈與者ハ贈與者ハ贈與目的タル物又ハ権利)

瑕疵又ハ欠缺ニ付キ其實ニ任セシムトシ贈與物ノ妨害及ニ追奪ニ對シテ贈保、責任任セサルハ勿論一

般ニ瑕疵擔保ノ責ニ任セサルヲ以テ通則ト爲セリ然レトモ既成法典ハ右通則ニ對フル例外トシテ妨

害及ニ追奪カ贈與以後ニ係ル贈與者ノ所爲ニ本末ニ合ハル場合ニ對する規定スル離セ之の固ヨリ特リ明文ヲ要

セサルノミナラズ字句ニ拘泥テ此例外トシ解説スルトキハ贈與者物又ハ権利)瑕疵又ハ欠缺アルコ

トヲ知リテ贈與ヲ爲シカ爲ニニ受取者ハ妨害又ニ追奪セラルケモ贈與者ハ尙其實ニ任セサルカ

ノ疑レヲ起シ却テ贈與ノ本旨反ヘル結果ニ生シムルニ因リ本案ハ贈與者ガ瑕疵又ハ欠缺アル

コトヲ知リテ之ヲ受取者ニ告ケサリシトキハ宜シク其責ニ任ヌベシト之ヲ以テ本條例外ト爲セ

本條第一項モ第一項ノ通則ニ對スル一様例ニシテ既成法典ニ其例ナシト雖モ受取者ニ贈與ヲ受クル
爲メニ或負擔ヲ引受ケタル場合ニ於テハ此點ニ關レバ雙務契約ヲ取結ヒタルカ如ノ贈與者ニ於テ

第五百五十一條
(理由) 本條ノ規定ハ既成法典ニ其例ナシト雖モ實際上頗ル必要アルニ因リ新ニシテ加タリ即チ公
益ノ爲メ又ハ類似舊舊ノ爲定期、資金・扶助料等ヲ贈與スルコトヲ約レ然モ其終期ヲ定メサルコト
アルハ往々見ル所ニシテ斯ノ如キ場合ニ於テ本條ノ明文ナキトキハ一旦贈與ニ因リテ發生シタル權
利義務ハ贈與者ノ故意ニ反シテ當事者相対人ニ移轉シ頗ル不當ノ結果ヲ生スルコトナシトセビ之
レ法律ハ豫メ斯ノ如キ場合ニ處スル規定ヲ設ケル必要アル所以ニシテ當事者カ別ニ終期ヲ定メサル
トキハ其通常ノ意思ハ各自ノ終身ヲ限リ贈與ヲ爲シ又之ヲ受ケタルモノト認ムヘキニ因リ木案
定期ノ給付ヲ目的トル贈與ハ通則レバ當事者一方ノ死亡ニ因リ其效力ヲ失フモノト爲セリ

第五百五十二條

(理由) 負擔附贈與ハ受取者ニ或義務ヲ負シムルモノナレハ贈與タルト同時ニ此點ニ於テハ恰ニ雙
務契約ノ如キモノナレハ契約ノ履行解除等付キ雙務契約ニ關スル規定ニ從フヲ以テ至當ト師成
法典所載第三百六十三條ハ即チ此點當本ツキ贈與者ハ其要約シタル條件ニ不履行ニ本ツキ

第五百五十三條

(理由) 本案第五百四十八條ノ規定、生眷者間ニ於ケル贈與ノ外贈與者ノ死亡ニ因リテ效力ナス生スヘキ贈與ヲモ包含スト誰モ此種ノ贈與ノ關係ヲ規定ハ種々ノ點ニ於テ生眷者間ニ於ケル贈與ノ關係スルモノ異ニシテ口遺言ニ依ル贈與ト同一規定ニ從フヘキニ因リ特ニ太條ノ明文ヲ以テ遺贈ニ關

スル規定ニ從フヘキ旨ヲ明カニセリ
二因リ之ヲ刪除シタルノミ

第三節 賣買

(理由) 本節ノ規定ハ既成民法財產取扱編第二章及上商法第一編第九章第一節ノ規定、該當ス既成法典ニハ財產取扱編ナルモノヲ設ケテ諸種ノ取得方法ヲ規定シ其中ニ賣買ヲ入ルモ本義ハ之ニ對スル特別ノ一編ヲ設ケサルヲ以テ賣買ノ如クモ亦自ラ本案何レノ編ニカ之ヲ規定セサムヘカラス賣買ニシテ若シ其當然ノ結果トレバ當ニ直チ二物ノ所有權ヲ賣主ニ移轉シ他ニ當事者雙方ニ何等ノ義務ヲ生セサルモノトセハ之ヲ物權移轉ノ一方法トシテ或ハ物權編ニ規定スルヲ可トシトモ余輩ノ信アル所ニヨリハ賣買モ亦一ノ契約ニシテ之ヲ取結ニ因リ賣主ニハ必ス一旦權利ヲ移轉スルノ義務、生シ目的物ノ特定ノ場合ニ於テ其義務ハ直チニ履行セラレテ權利ハ賣主ニ移轉スルモノトセナリ合假ニ一步ヲ譲リテ物ノ所有權ハ直チ賣主ニ移り賣主ニハ何等ノ義務ヲ生セヌタルモ買主ニハ常ニ代價ヲ支拂フヘキ義務ヲ生スルカ故ニ賣買ハ義務ヲ生スル法律行為トレバ之ヲ權編ニ置ク可トス罪ニ特定物ノ賣買ノミニ就ケテノ貰賣モ尙且此ノ如クナルニ不特定物ニ關シテハ斯ナノ學說ニ據ルモ賣主ニ權利ヲ移轉スル義務ヲ生スルモノナリ況ニヤ特定不特定ノ場合ニ間ハス賣主ハ常ニ其讓渡シタル權利ノ追奪擔保ノ賣主ニ任スルヨニシテ往々之ヲ追奪擔保ノ義務ト稱シテ賣主ハ獨立義務ニ算入スル者アルニ於テオヤ是レ本案ニ於テ賣買ヲ債權編ニ規定スル所以ナリ既成法典財產取扱編第三章ハ之ヲ四節に分す其第四節ノ不分物ノ競賣ヲ規定スレモ本案ハ既ニ物權編中共有ノ規定ニ於テ之ニ關スル條文ヲ設ケタルヲ以ヒ今再ヒ茲ニ當ラシ要ナリ又商法第一編第

立法例ニ依レハ解除權ト賠償請求權トニ付キ其一ヲ選擇セシムルモノナレハ或ハ解除權ノ行使、損害賠償ノ請求權ヲ除却スルモノナリトノ疑ヲ生セムル。因特ニ本條第三項ノ明文ヲ掲ケタリ。其他物ノ保管費或貯貿等ノ賠償ニ關スル事項ハ占有權ニ關スル規定ニ依リ自ラ明白ナレハ此ニ之ノ明示スル必要ナシトス。

第五百四十五條

解除權ノ行使ハ前條ノ規定ニ因リ當事者相互ニ原狀回復ノ義務ヲ負ハシムルモノナレハ或ハ解除權ノ行使、損害賠償約定ヲケル當事者双方ノ義務ノ如ク互ニ相對立セリモノナレハ其履行ニ關シテモ亦債務契約ノ規定ニ從フヲ以テ至當トス然レトモ契約ニ木條ノ義務ニ關スル規定ハ解除權ノ行使ニ因リテ生スル法律上ノ義務モ當然適用セラル。キヨモニアラサレハ本案ハ特ニ本條ノ規定ヲ設ケ雙務契約ニ關スル第五百三十二條ノ規定ハ之ヲ前條ノ場合ニ準用ス。キヨコトヲ明示セリ。

第五百四十六條

本條及ニ次條ハ解除權ノ消滅ニ關スル規定ニシテ就中本條ハ解除權ノ除却ニ關スルモノトス蓋シ解除權ヲ有スル者ノ相手方ハ極メテ不確定な状況ニ在ルモノナレハ際限ナク解除權ヲ行使スルコトヲ許可スト。ハ只、相手方三不利益ナルノミナラス不確定ナル法律關係ヲシテ永ク存續セシムルハ立法上ニ於キモ亦經濟上ニ於キモ共ニ避クヘキコトナル。因リ本案ハ解除權ノ行使三付キ期間ノ定ナキトキギハ解除權ヲ有スル者ノ相手方ヲレテ相當ノ期間ヲ指定シ其期間内ニ解除權ヲ行使スルナ否ヤヲ

確答スベキ旨ヲ曉告スルコトヲ得セシメ若シ此期間内ニ解除權ヲ有スル者カニコトヲ行使セサルトキハ期間ノ經過ニ因リテ解除權ハ當然消滅スルモノトシ不確定ナル法律關係ヲシテ適當ノ時期ニ迄著セレメ立法ノ本旨ニ適セシムルモノトス而シテ本條ノ場合ニ於クノ期間ニ關シ既成法典尙遼を得編第八十三條ハ賣主ノ解除期間ヲ八日トシ以太利民法ハ十五日トシト而後民法草案ハ四週間ト爲スカ如ク法律ニ依リテ一定期間ヲ指定スル倒少カラスト雖セ總ア契約通シテ斯ノ如ク期間ヲ限定スルハ頗ル不便シテ適當ノ結果ヲ收メ難キニ因リ本案ハ既追認。期間ニ關シテ採用シタル主義ニ從ヒ單ニ當事者ノ相當ノ期間ヲ指定スルコトヲ得トシハ實際ノ便宜ニ適セシメタリ。

第五百四十七條

本條ニ亦解除權の消滅ニ關スル規定ニシテ解除權ヲ有スル者カニコトヲ拘束スル所爲例ハ契約ノ目的物ヲ他ニ譲渡シ或ハ之ニ第三者ノ権利ヲ設定スルカ如キトコト爲シ又ハ自己ノ過失ニ因リテ目的物ヲ返還スルコト能ハサルニ至リタルカ其他目的物ニ工作ヲ如ヘ或ハ之ヲ變革シテ原狀ニ回復スルコト能ハサルニ至ラシタルキハ解除權ノ消滅スヘキヨリ至當ニ事ニ關シ若レ此等ノ場合ニ於テ樹木解約タルコト得セシムルトキハ其相手方ノ不利益ノ豫メ之ヲ推知スルニ足ルビレ本條第
一項ノ規定ヲ設ケ前述ノ事情アル限ハ解除權ヲテ當然消滅セシムル所以ナリ
木條第一項ノ目的物ノ解除權ヲ有スル者ノ所爲又ハ過失ニ因リテ滅失又ハ毀損シタル場合ニ於
木條第一項ノ當事者何レ此批失ヲ負担スベキヤラ規定スルモニシテ本案ハ既ニ五百三十三條ニ於危

險ノ負擔ニ關スル通則ヲ掲ケタレハ本項ノ場合ニ於テモ固ヨリ此主義ニ從ヒ解除權ヲ有スル者ノ相手方ノ右ノ指定ノ負擔スベシ従ヒ解除權ハ消滅セサセモノトス而シテ特ニ本項ノ明文ヲ掲ク所以ハ必有解除權ヲ有スル者カ目的物ヲ返還スルコト能ハサル位置ニ陷リタルモノナレハ或ハ本條第一項ノ規定ニ因リ解除權ハ當然消滅スルモノナリトノ疑フ生セレムル處アレハナリ

第二節 贈與

(理由) 本節位置ニ關スル諸國ノ立法例及ヒ學者ノ見解、然ル區々シテ佛國民法ハ羅馬法ニ倣フ

テ之ヲ所有權得ノ部、揚載シ既成法典其他佛國民法ニ採用メル諸國ノ法典ハ總ニ此編纂法ニ從
フト雖モ埃及大利、索連チエリヒ等ノ民法及ヒ猶太民法草案ハ之ヲ債務編ニ編入シ殊ニ巴威里民
法ノ主義ニ依レハ贈與ハ獨リ無價ニテ所有權ヲ與フルノヨナラス第役ヲ供シ、寄託ヲ受ケ若クヘ事
務管理ヲ爲ス如キ方法ヲ依キモ亦能ク贈與ヲ爲シ得ヘキ也ノナレ、民法ノ總則中ニ規定スルヲ以テ
正當ナリトシ有力ナル數多ノ學者モ亦此見解ヲ有スルモノノ如シ然レトモ贈與ハ通常此ノ如キ廣漠
タル意義ヲ有スルヨニ非ヌ寧ロ財產取得ノ方法ト認ムルノ妥當ナルニ如カスト雖モ贈與モ亦買
賣貨借等ノ如ク一種特別ノ法律行為トテ債務關係ヲ生セシムルモノナレハ本來ノ換業等ノ編
纂法ニ倣フテ之ヲ債權編ニ編入シ殊ニ贈與ノ規定ハ他ノ契約ノ規定ニ比シテ最も簡單ナルニ因リ各
種契約ノ前二掲セラノトス

既成法典ハ財產取得編第十四章ニ於テ贈與及ヒ遺贈ニ關スル規定ヲ合載スルト雖モ本來ハ遺贈ノ規定
ハ之ヲ相續編ニ倣クナレハ本節ニ於テハ單ニ贈與ノ規定ヲ掲クルヨニテ主ドシテ既成法典同章
總則及ヒ第二節ノ規定ニ依レリ而シテ既成法典第十四章第一節、更ニ之ヲニ該す三分之第一款ヲ贈與
ノ方式トシ第一款ノ贈與ノ廢棄ト爲スト雖モ其第一款中ハモ方式ト關セサル規定多ク又贈與ノ廢棄
ハ契約ノ取消ニ關スル一般ノ規定ニ依リテ自ラ明白ナレ、既成法典同章第二節ノ規定ハ總ニ之ヲ刪